

## 「2012年度 恋愛関係・同性友人関係についての調査」 お礼と結果報告

このたびは、私の全3回（2012年5月～7月 or 同年10月～12月）にわたるアンケート調査にご協力いただき、大変ありがとうございました。

この調査の目的は、「私たちはよい関係を維持することができる」と恋人たちや友人たちがお互いに思い合えるという**関係効力性**が、幸福感を高めるかどうかを明らかにすることでした。この調査では、幸福感を、(a) 自分の人生を幸せだと思えるかどうかを意味する**人生満足度**と、(b) 自分が人間として成長しようとしているかどうかを意味する**人格的成長**という2つの側面からとらえました。

ここでは、この3つの指標に関する統計的な解析結果について、簡単にご報告いたします。なお、以下でご報告する結果は、3回の調査すべてにご回答いただいた方のデータに基づいています。

### 1. 調査参加者の基礎的な情報

恋愛カップル 72組

男性：平均  $19.9 \pm 2.17$  歳、女性：平均  $19.1 \pm 0.82$  歳

関係継続期間：平均  $12.5 \pm 12.2$  ヶ月

同性友人ペア 120組（2人とも「とても親しい友人」と回答したペアのみ）

男性：平均  $18.7 \pm 0.61$  歳、女性：平均  $19.4 \pm 0.94$  歳

関係継続期間：平均  $35.7 \pm 40.4$  カ月

### 2. 関係効力性の得点：恋愛カップル・同性友人ペアごとの変化

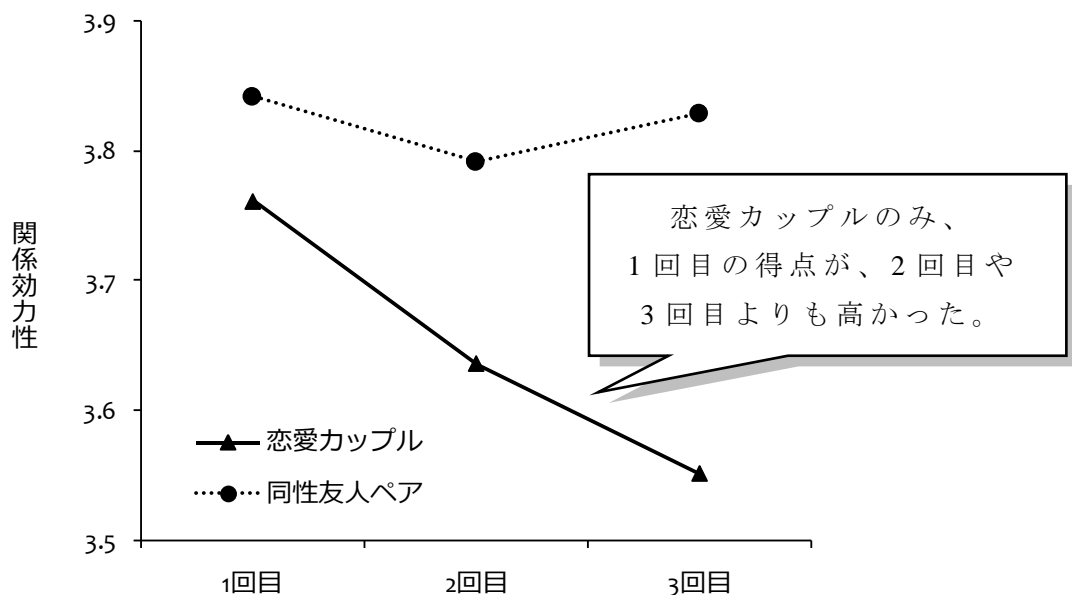


図1 関係効力性の得点（1点～5点）

### 3. 人生満足度の得点：恋愛カップル・同性友人ペアごとの変化

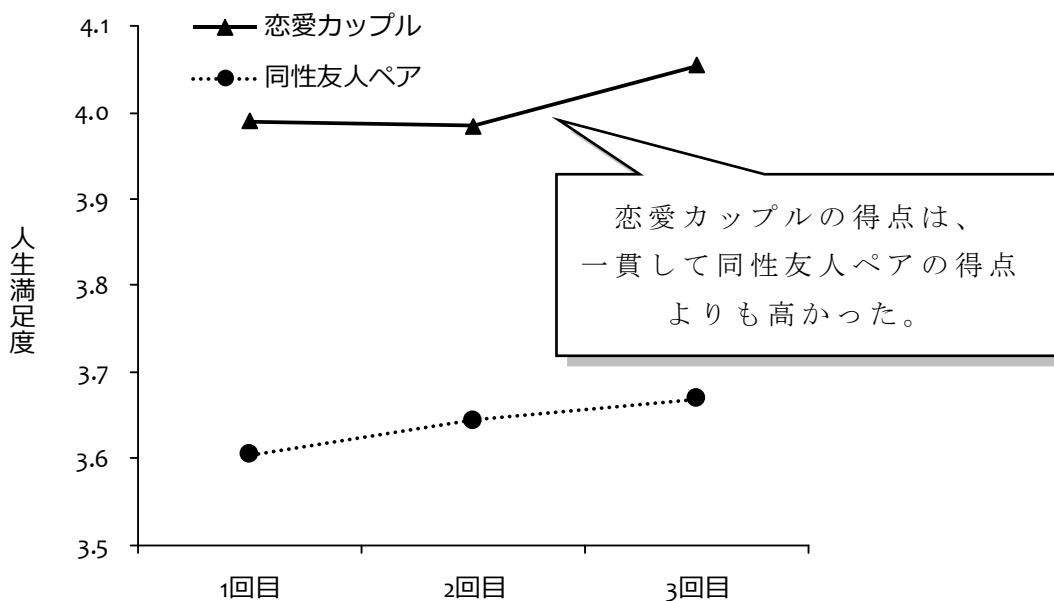


図2 人生満足度の得点 (1点～7点)

### 4. 人格的成長の得点：恋愛カップル・同性友人ペアごとの変化

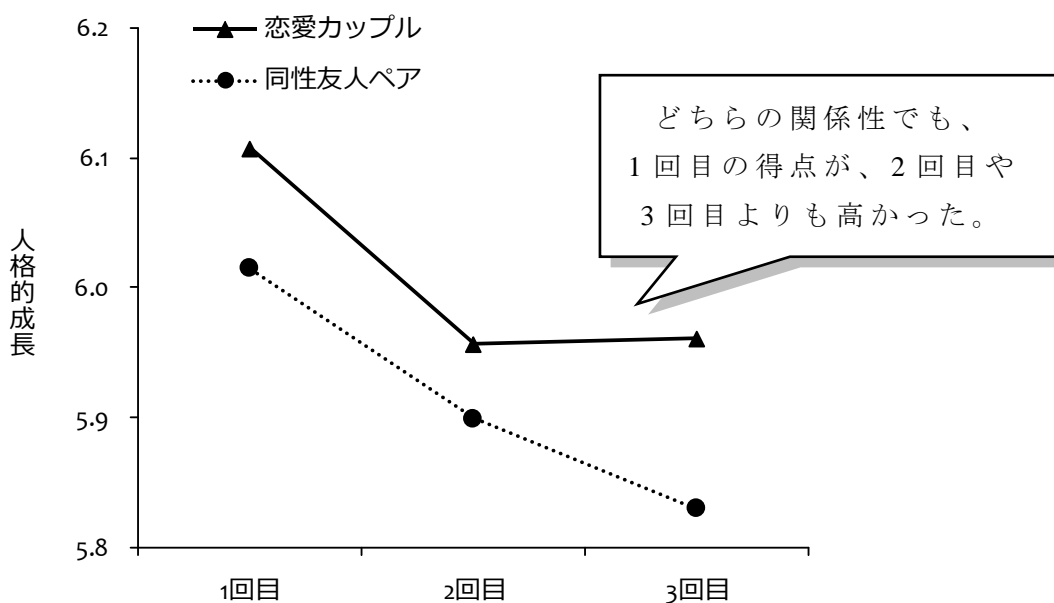


図3 人格的成長の得点 (1点～7点)

### 5. 最後に

これから、関係効力性の高さが幸福度を高めるという因果関係の検証をはじめ、さらに心理学的な解析を行っていきます。その結果は、国内外の科学雑誌や学会にて発表させていただく予定です。重ね重ね、どうもありがとうございました。